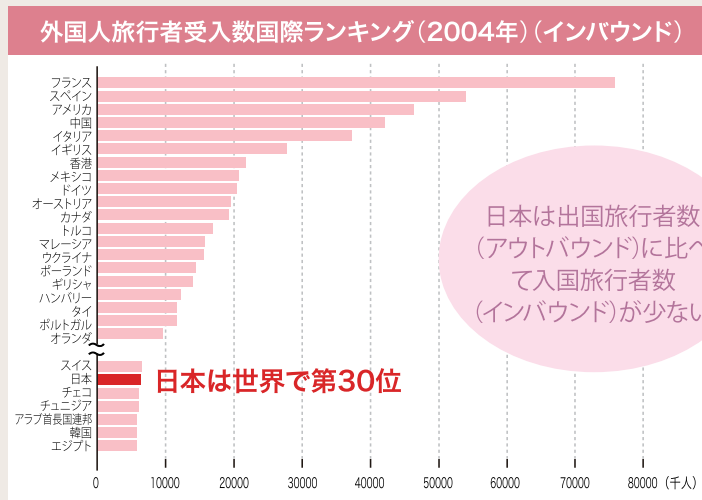
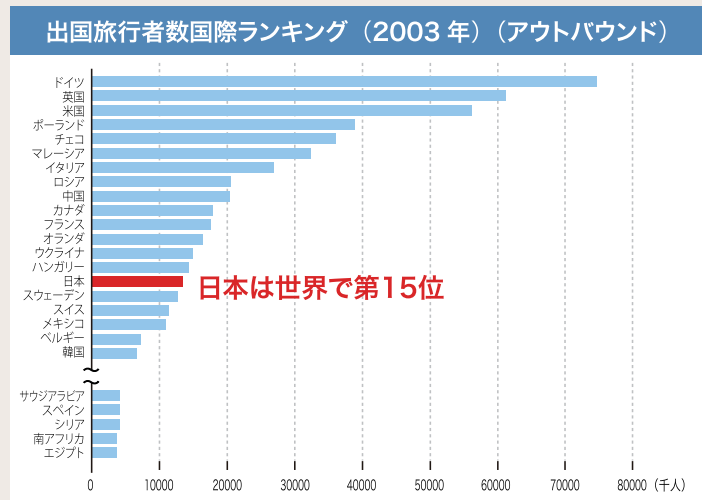


主要国における出国旅行者数国際ランキング



出典：国土交通省『観光白書 平成22年版』

日本は出国旅行者数 (アウトバウンド) に比べて 入国旅行者数 (インバウンド) が少ない



ロケ風景

人のつながりが新たな事業を生む ～浜名湖えんため～

平成15年発足、正式名称は「環浜名湖地域の観光振興を考える会」。館山寺温泉観光協会が中心となり、浜名湖全域が観光地としての価値を高めていけるようさまざまな計画を進めています。

浜名湖の新たな魅力の発掘や、生産日本一を誇るガーベラの摘み取り体験ツアーの開催、浜松・浜名湖のロケ支援を行う浜名湖ロケ応援団事業などを幅広く展開。浜松市が舞台の映画制作は2作目とな

り、いよいよ10月9日から『書道♡ガールズ青い青い空』が同市で先行公開されます。地元での映画制作には、映画を通して住民同士が絆を深めることで新たな連携を生み、また未来を担う子どもたちが自分の住む街の魅力に気づき、外へどう発信していくかを考えるきっかけになればとの願いも込められています。

<http://www.enter-me.jp/index.htm>

ゆつくりするとかが人気です。**司会**／「見る」観光から「体験する」観光へ、中身が変化しているようですね。

原田／「安倍奥の会」のイベントに街中から足を運んでくれた人の多くから、「もっと地元の人と話す機会をもちたい」という声を聞きました。みんな、人とのふれあいを求めているというか、里山で暮らすおじいちゃんやおばあちゃんと話したいようです。

司会／自然が豊富な静岡県では、グリーンツーリズムといわれる自然体験型観光が各地で企画されています。坂野さんは以前からその企画に関わっていらっしゃいますが、その辺のお話を聞かせてください。

坂野／グリーンツーリズムは都会の人が日常の生活にないものを求めて参加します。今の人たちにとっての観光地とは、昔ながらのすべてが用意されているものではなく、自分がいいと思う場所がその人にとつての観光地なんです。だから宿などがちゃんと整っていないけれども、魅力を感じれば行きます。静岡県はいい資源がたくさんあり、発展する可能性は大きいと思います。

市野／グリーンツーリズムをさらに発展させるためには、参加する人のニーズをしっかりと把握して、どんな人たちに何を体験してもらいたいのかを明確にすることが大

切だと思えます。受け入れる側の意識が高くないと、全体がぼやけてしまふのでは。受け入れ態勢をもっとしっかり整えることが課題だと思います。

稲葉／観光業界はマーケティングが遅れています。どれだけ人が訪れてお金が入るのか。年間でこれだけの集客、収益を上げるためには、どのくらい投資すればいいのか。どの地域、どんなターゲットにどんな営業戦略をかけるのか。これからはそれぞれの観光地でそういうことを考え、計画していかなくてはなりません。観光に対するニーズがともな多様化しているのに、観光業界側は昔のままのパターンを続けるため、お客さんに対応しきれなくなり、観光地が衰退しているのが実情です。ただ、最近では中国の成長に伴う観光客の増加が始まり、30年くらい前の日本の観光の形が繰り返されています。中国人観光客の、有名観光地を巡ってお土産を買って満足という形の旅は、ここ数年は続くかもしれないませんが、その先はまた変化していくでしょう。

司会／館山寺温泉では経営計画を立てられているのですか。

稲葉／はい、去年から作成中です。各事業所ごとの収益や成長分野への投資など、お互いが腹を割って話し合っていないかと思っ

います。

坂野／昔は大きな旅館やホテルの中にレストランもお土産店も娯楽施設もあり、それだけで済んだ、いわば囲い込みのような形の観光が主流でした。それから30年近く経って観光の意味が多様化し、体験型へと移行している中、一つの施設の中で終わるのでなく、地域資源を生かす新しい形の観光が望まれています。また農業、漁業といった今までの観光とは無縁に思われた分野の人たちも、今は観光とつながっています。特に茶業は衰退の一途をたどっていて、なんとかしなくてはという危機感からも、グリーンツーリズムが注目されています。

市野／茶産地に住む人にとって、茶畑はごく普通の風景です。だから茶畑を見てもあまり感動しない。でも海のないところに住む人は、海岸の波にとっても感動するし、雪のないところに住む人は銀世界に感動しますよね。旅行というのは日常と違う体験であることが大切で、日常の風景の茶畑を、どう感動の風景として見せていくかを研究する必要があります。

原田／お茶で有名な静岡市に住んでいても、街の人はあまり山の茶畑を見たことがないようです。私たちが地域の魅力を掘り起こす形でイベントを開催する時には、街からたくさんの方が来てくれ

新茶の季節に一面の茶畑を見ていただくとうまく感動してくれます。地域の魅力をうまく発信していくことが大切で、みんなそうだったものを求めているのだと思います。

富士山静岡空港の魅力度アップ

利用者の心をつかむには

司会／富士山静岡空港の利用についてですが、海外の主な就航先である中国からの観光客には、静岡のどんな魅力をつたっていくのがいいのでしょうか。

市野／静岡には四季の美しさがありますが、風光明媚だけをポイントにするのは違いますね。ただ富士山は別格です。富士山をバックに新幹線の写真を撮る、ということができるのは静岡県だけです。これだけで日本に行くと満足感を得るんです。今の中国人の観光は、一昔前の日本人の海外旅行に似ています。買い物目的の人が多かったじゃないですか。その段階だと思います。「侘び」「寂び」を伝えるのはまだ早い。微妙な心のひだを分かっただけというより、日本は豊かで素敵できれいなものがあることをもっとと宣伝していく時期でしょう。

司会／日本の情報はどのくらい伝わっているのですか。

市野／情報伝達は必ずしも正確とは言えません。家電は秋葉原、ブラ

キーワード集

●観光圏整備法

観光地が連携して2泊3日以上の滞在が可能な「観光圏」を形成することで、民間のソフト事業に対する補助制度や、各種法律の特例などにより、地域の自主的な取り組みを支援し、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを推進させる法律。平成20年7月に成立した。観光庁(ホームページより)。浜名湖観光圏の構成団体の一つ館山寺温泉旅館組合では、この制度を利用して着地型旅行を企画、ホテル・旅館の宿泊客に地域の自然や文化、観光名所を楽しんでもらっている。



編集員

●着地型観光

旅の目的地(到着地)に所在する地域住民や旅行者が企画するもの。地元の強みとして独自の高い企画を提案することができる。地域文化を体験するもの、テレビドラマや映画のロケ地を巡るもの、等その企画内容は多岐にわたる。地元にとっても新しい観光素材の掘り起こしが地域活性につながるとして注目されている。

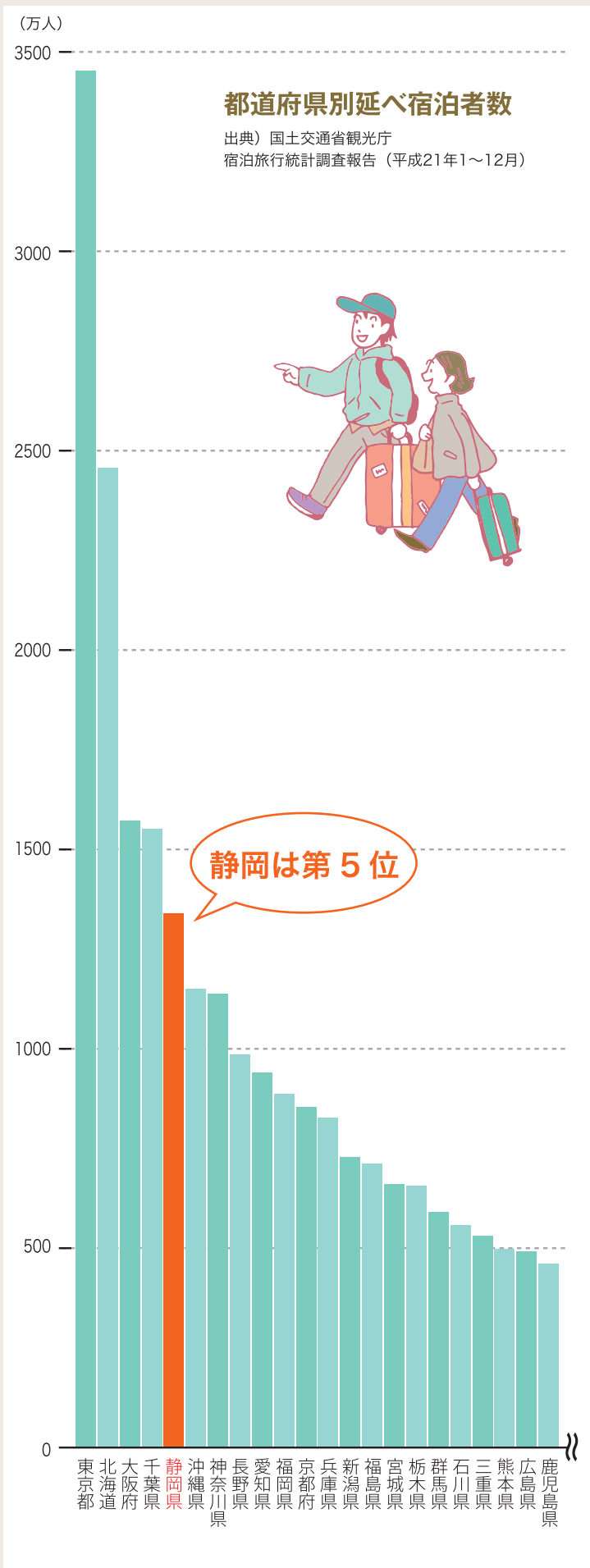
●ツーリズム

物見遊山的な観光と区別し、体験型観光として位置づけられる。環境に配慮したエコツーリズム、山や森などの自然を扱うグリーンツーリズム、医療サービスを受けることを目的としたメディカルツーリズム、映画やドラマの舞台を訪ねるスクリーンツーリズム等多くの種類がある。

●ジャパンレールパス

日本国外からの観光客等を対象にJRグループ各社が発行している特別企画乗車券。ヨーロッパのユーレイルパスのように設定された期間内は鉄道・路線バスが乗り降り自由で利用できる(一部を除く)。基本的に日本国外でのみ発売されており、日本国内では購入できない。

編集員



は地域の力です。何を目的に行くのかという。例えば空港周辺にはメジャーな企業の工場がたくさんあるので、それらの企業がアウトレット商品の店を出すのもいいし、また免税特区があってもいいと思います。

人が動くにはアクセス、利便性が重要です。利便性は距離と時間と価格すべてを含めたもので、今の静岡空港にはそれがそろっていない。どれだけ静岡空港に行きやすくなるか、新幹線新駅の話も出ていますが、あれは絶対必要です。あとは値段と地域の魅力です。そこまでできたら、すごく使いやすく行きたい

空港になると思います。

司会／中国から来静する方が増えています。中国の方が喜ぶサービスはどのようなものでしょう。

市野／大勢で賑やかに食事をする。中国の方たちは望みません。でも日本はそういった施設がないです。上海などでは千人入るレストランもあって、どこも満杯なんです。それだけ食に対する意識が高いですね。また、他国に到着して不安感があるときに、母国語でインフォメーションが聞こえてくる、または自分の聞きたいことが母国語で聞ける、そんなサービスが整っていると安心できます。さら

に表示だけでなく、従業員の間に片言でもいいから話せる人がいれば、それが一番のおもてなしになると思います。

司会／ほかに外国の方のために必要と思われることはありますか。

市野／外国の方が新幹線の旅を格安で楽しめる「ジャパンレールパス」というものがあるのですが、メ리트が大きい割に利用者数が少ないようです。自国で手配して日本でパスを受け取るのですが、JRの限られた駅窓口でしか受け取れず不便です。ですからそのパスが空港内でも引き換えができるなど制度が変わればとても便利だし、静岡空

日本で買いたい物も年々変化

- 1位(6) 日本茶
- 2位(2) カメラ、デジタルカメラ
- 3位(3) 着物、ゆかた
- 4位(8) 菓子
- 5位(1) 洋服
- 6位(5) 玩具、キャラクターグッズ
- 7位(4) 履物、バック
- 8位(9) 和風室内装飾物
- 9位(7) 日本酒
- 10位(-) 音響機器 (MP3プレーヤー、i-Podなど)

(注)日本政府観光局の2009年調査。カッコ内の数字は07年

坂野／20年くらい前に、これからできる静岡空港のあり方を考える座談会がありました。当時は私たちが空港から外に行くことを中心に考えていました。それが開港が近づくにつれて、外からくるお客さんのもてなし方が話題になるようになりました。でも実際には人が来ていないわけですよ。他の地方空港を見ても来るより出ていく方が多いようです。だから県民がどう空港を使うかです。見送りや出迎えに加えてもっと他の活用の方

法はないのか。静岡空港では呈茶のコーナーがあり、週替わりで県内各地のお茶を出しています。利用した方に聞いてみると、とにかく着いてまず1杯、帰りにまた1杯と本当に静岡にもてなされていると感じるそうです。搭乗者に対して見物客が多い、というのも悪くありません。いかに空港を意識する人がたくさんいるかが大切です。県内の人が「静岡空港に行けば面白い、楽しい」と思うようになれば、外から来る人も増えるのではないのでしょうか。

市野／空港だけでなく、周辺エリアもいろいろなお店ができる場所になればいいですね。

坂野／旅のエントランスになるようにするには、施設の小さいかもしれないですが、それは周りとの連携でうまくできると思います。

市野／空港をどう活かすかは周りの人に与えられたチャンスなのに、「さあ活用してやろう」とみたいな空気を感じない。いま頑張ってるよっておかないと、競争社会の中で負けてしまいます。

司会／今までのお話から、静岡空港に必要なものは何だと思われませんか。利用者を増やすのは、本来

静岡出身の女性映画監督を応援!

今年5月に静岡市出身の映画監督、浜野佐知さんを支援する会が誕生しました。浜野さんは71年に映画監督としてデビュー、女性側の視点で「性」を描き続け、300本を超える作品を発表しています。最新作「百合子、ダスヴィターニヤ」では、浜野さんが少女時代を過ごした静岡県で全編ロケをと、沼津市の映画ロケ支援事業で親交があったメンバーが中心となって会を発足させました。会員は約40人。ロケ地探し、作品上映会やシンポジウム、フリーペーパー発行など意欲的にPR活動を行っています。「映画に使えるかな?と

～浜野監督を支援する会静岡～

という視点で自分たちの地域を見直すと、新たな発見があります。古い建物も、ロケに使われることで再び息吹が蘇ります。できるだけ多くの方に、映画作りに関わっていただきたい」と、代表の石垣さん。身近な風景がたくさん登場する映画の完成が待ち遠しいですね。

浜野佐知監督を支える会
(同会ではこの映画への支援として寄付金も募っています)
代表 石垣詩野さん
且々舎 <http://www.h3.dion.ne.jp/~tantan-s/>





熱海の新たな魅力を発信 ～オンたま～

平成21年から春と秋の2回、さまざまな角度から熱海の魅力を満喫できる体験交流型プログラムを開催している熱海温泉玉手箱「オンたま」。この秋も10月9日(土)～11月14日(日)、港で朝釣り朝ごはん、干物づくり、宿めぐり、食べ歩き、芋掘りなど約60プログラムが実施されます(予約制、詳細はHP)。

実行委員はNPOや観光協会を中心に、市民有志や旅館組合などの若手たち。地元の人々が気付いていないような、地域の資源を発掘して磨いていこうと取り組んでいます。

「1旅館の魅力だけで集客できた時代もありましたが、これからは街全体の魅力を高めていく必要があります。温泉、宴会、花火大会だけが熱海ではない、ということを知ってもらい、熱海ファンを増やしていきたい」と実行委員長の市菜広一郎さん。外からの集客を考える前にまずは足元を固めたい、と地元の人にこそ積極的にイベント参加を呼びかけています。

http://wla.jp/ontama/
熱海市観光協会 TEL 0557-85-2222



里山に元気を取り戻したい ～安倍奥の会～

会の始まりは、代表の原田さやかさんが限界集落に興味を持ち、平成20年6月に友人と玉川の奥仙侯に住むおばあさんに会いに行ったところから。過疎化、高齢化で玉川地区が衰退しつつある状況を目の当たりにし、なんとかしたいと一念発起。地区の魅力を掘り起こし、街の人にその魅力を伝えていくだけでなく、住民にも地域の良さを再発見してもらい一緒に盛り上げていきたい、と活動しています。

http://abeoku.comi.in/



港の利用価値も上がり、静岡から旅を始める人が増えると思います。

外からの視点で気付く 地域の宝

司会／稲葉さんと原田さんは、地域の活性化のために会を立ち上げて活動されています。その内容を教えてください。

稲葉／「浜名湖えんため」は今年で7年目を迎えます。浜名湖花博の前年に、大イベントが終わった後の落ち込みを抑えるための事業を展開しようと思ったのですが、もともとは自分の危機感からなんです。当時自分は20代でしたが、周りの後継者はみんな外に出てしまっている。呼び戻すには楽しい事業が必要だと先輩方をくどいて動き出したのが始まりです。

司会／当初のメンバーはどんな方たちだったのですか。

稲葉／観光関係が多かったですが、農家の人もいました。最初は遠州灘天然とらふぐを、浜名湖のうなぎに次ぐ名産にしようという事業をスタートしました。最近ようやく「とらふぐ」の知名度が上がりましたが、まだまだです。他にはフラワーツーリズムや、現在2作目となる映画の事業を行っています。映画を観た方に浜名湖に興味を持ってもらい、住民には自分の住む地域の魅力を再発見する機会になってほしい。

ら意識が変わってきて。来て下さるなら自分たちもちゃんとしなければと、自信を持ってお茶を淹れられるように日本茶インストラクターから習ったり、茶器をそろえたり。そうなるも男性より女性の方がフットワークが軽く、今度はこんなにやくを作ってみようとか、食後に出すスイーツを用意しようとか、アイデアがどんどん出てきて実行も早い。ツーリズムはお茶を飲んだ方のおいしいという声を直接聞くことができるので、皆さんそれがうれしく、励みになっています。

地域の良さを 見つめて見つける オリジナルな旅のすすめ

司会／隠れた観光資源の発掘やその活かし方、また穴場情報などがありましたらお願いします。

原田／例えば静岡市内に家康の側室だったお万の方が、家康を弔うために作った池が残る感応寺というお寺があるのですが、県内にはそういう埋もれた史跡が本当に多いんです。それらをもっと興こしていくと何か外に発信できるものになるのかなと思います。

市野／テーマ性のあるものはいいですね。浜松の龍潭寺には小堀遠州が作った庭があって、ロンドンの友達が勉強のために見に来たことがあるんです。そんなに価値のある庭

観光という視点で、地域の意識を変えていきたいと思っています。

司会／ツアーはオーブンガーデン巡りも人気そうですね。

稲葉／はい、お客さんの9割が女性です。ガーベラのツアーもそうです。ですから女性の感性はとても大切で、自分が手がける仕事では、できるだけ女性の意見を聴くようにしています。イベントを行うときはできるだけ女性の目線や感性を取り入れることができるかが課題です。

司会／原田さんは「安倍奥の会」を主宰されているそうですね。

原田／限界集落という言葉を知ってから静岡の状況を調べ始め、安倍奥にある玉川地区や仲間と出会いました。自然な流れで安倍奥の会が立ち上がり、メンバーも増え、年齢は20代から70代まで幅広いです。玉川にはゆったりと流れる穏やかな時間、長い歴史によって培われてきた伝統や風習、自然に寄り添った美しい暮らしや知恵があります。高齢化、過疎化が進んでいる中で、里山と街が今以上につながり、こういったものを残していきたいと強く思うのです。

司会／地元の方とはどのような交流があるのですか。

原田／私たちメンバーは外の人間が多く、受け入れてもらうのに少し時間がかかりましたが、今ではイベント時に地区の後援がいただける。なんだとそのとき初めて思いました。觀賞する庭とガーデンングとをつなげたコースはどうですか。見るだけでなく体験できるような。

稲葉／地域の良さを出す根本は歴史です。自然も伝統も全て歴史の中で育まれたもの、そこがまだまだ掘り下げられていない。今観光に携わっている方は、流行の先しか追っていない。過去に戻って考えることも大事だと思います。仕事柄、コースを考えることはよくします。今は何でも観光になる強みがあります。ただツアーは旅行会社でなくても作れますが、難しいのはそれをどう扱うか。ビジネスラインに乗せるには、宿泊のことや採算性など考えなくてははいけません。

坂野／ツアーを作っても売れる保証はないですね。売れる前に息切れしてしまう商品もある。

稲葉／もちろん仕掛けはしていかなくてははいけません。ツーリズムは儲からないと言われる。最大の理由は生産が追いつかないなどの原因で、商品が少なくて受け入れができません。商品があってもお客さんが来ないからです。利益を出していくにはPRと、受け入れ態勢を同時に整えていく必要があります。

市野／以前、地産地消の農産加工場のアドバイザーをしたときのこと、地域センターのレストランでメニューを見たら、ナポリタンやハン

ようになりまして。「がんばってくださいのよ」と会を宣伝してくれているのを聞いた時は、本当にうれしかったです。先日のイベントでも田舎カフェで婦人部の方々が手伝ってくれたり、流しそうめんの設計をお願いさんが手伝ってくれたり、徐々にですけど、地元の方々と一緒にイベントを作り上げられるようになってきました。それと、玉川新聞を作ることを計画しています。地元の方にも街の方にも玉川の魅力を伝えられるように。それがいいかな大きなことに結びつくのかなと思っています。



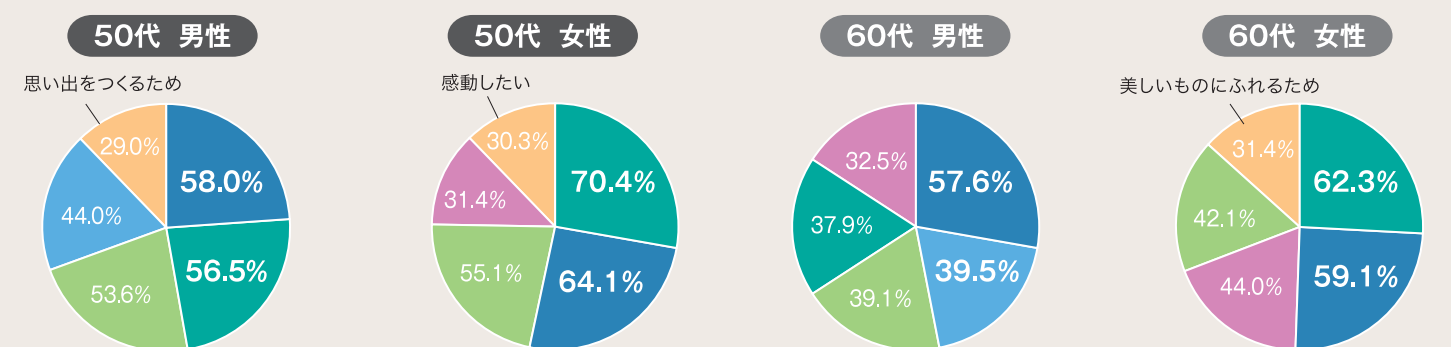
手作りのちらしてイベントをPR (安倍奥の会)

司会／他にも皆さんの活動を通して、住民の意識に変化が生じた事例などはありますか。

坂野／茶農家が何かをする場合、一軒で行うことが多かったのですが、静岡市葵区の足久保ではエリアで「足久保山彦会」をつくって取り組んでいます。農業は男性中心ですが、イベントを組むには女性の協力が必要で、女性にも会議に出てもらうようにしたんです。そうした

世代別・性別の旅行動機

■ 旅先のおいしい物を求めて ■ 日常生活から解放されるため ■ 保養・休養のため
■ 友達とのつきあいを楽しむため ■ 家族の親睦のため ■ 他



出典：『旅行者動向2006 国内・国外旅行者の意識と行動』、2005年調査